

# 報告

## 2023 年度若手奨励賞選考について

若手奨励賞選考委員会：飯塚礼子、岡村定矩、柴田晋平、鈴木文二、  
前田昌志、嶺重 慎（委員長）、山根弘也

### 1. はじめに

2023 年度若手奨励賞の募集は、「天文教育」誌 2023 年 7 月号に掲載されました（その後、本会 Web に掲載され、tenkyo ML でも配信されました）。応募は 2023 年 9 月末日で締め切られ 3 件の応募（自薦 1、他薦 2）がありました。選考委員会では応募書類を審査の上、2 名（個人）の受賞候補者を決定しました。

選考委員会は、2023 年 10 月 10 日（火）にオンラインで実施し、各候補者につき、新規性・独創性・発展性、および天文教育・普及活動全般へのインパクトなどの評価を行いました。それを元に討議した結果、河村聡人氏（京都女子大学／株式会社 sorano me）、星見まどか氏（VTuber）の 2 名を最終候補者として代議員総会に推薦することを決定しました。そして 2023 年度第 2 回臨時代議員総会（2024 年 2 月）において上記 2 名への授賞が決定しました。

なお選考委員会では、代議員総会での決定の後、被推薦者に「この点は高く評価されたが、この点が懸念事項として指摘された、今後こういう活動を期待する」といったフィードバックメッセージを送っています。

以下の選考理由は本人による事実確認を経て、本会 Web ページで公開しているものです。

### 2. 選考理由書

#### 2.1 河村聡人（カワムラ アキト）氏

年齢：35 歳（2021 年 7 月 1 日現在）

所属：京都女子大学／株式会社 sorano me

授賞対象となる活動：Mitaka のカスタマイズ機能の普及および教材開発

河村聡人氏は、国立天文台 4D2U プロジェクトが開発する 4 次元デジタル宇宙ビューワー「Mitaka」のカスタマイズ機能の普及活動と教材開発における先駆者として、天文教育と普及の進展に貢献してきた。河村氏は Mitaka ワーキンググループ（Mitaka WG）への積極的な参加を中心にその活動を展開している。Mitaka WG は Mitaka のさらなる普及を目指し、カスタマイズ機能の普及とそれにより Mitaka を操作して人に見せられる人材の養成を目的の一つとしている。河村氏が Mitaka WG に参加して以降、彼の熱心な取り組みは多くのユーザーが Mitaka の新機能を理解し利用する手助けとなっている。

河村氏の特筆すべき業績として、Mitaka のカスタマイズ機能を広めるための入門書として作られた「Mitaka カスタマイズ攻略マニュアル」（以下、教科書）の執筆がある。

（Mitaka には公式のマニュアルがあるが、基本的な操作も含めた網羅的なもので、カスタマイズ機能の習得に主眼を置いたものではない。）この教科書は Mitaka WG のワークショップの記録と共に本会の Web ページに掲載され、本会の財産の一つとなっている。

しかしながら教科書の記述はかなり専門的である。そこで河村氏は、専門知識がそれほどない人でも独学で学びやすいようにするため、教科書の内容をより詳しく解説した「Mitaka カスタマイズの手引き」（全 6 回）を 2023 年 5 月から『天文教育』誌にて連載中である。これは順次 Web 上で公開されており、さらなるユーザーの広がりが期待できる。

さらに河村氏は、Mitaka 上で動作するク

イズゲーム「SPACE-CISTE」(旧名：宇宙お宝探しゲーム)を開発した。これは、より一般のユーザー(たとえば小学生・中学生)を想定し、Mitakaを「見せるもの」から「自分で操作し、自由に探検できるもの」として能動的な操作を促すといった、これまでの枠組みを超えた独自のアプローチをもっている。河村氏は小学校にて、「SPACE-CISTE」の実証授業を成功させている。これは Mitaka の教育利用の実例として、非常に価値のある取り組みといえる。今後、学校現場でのさらなる実証も期待される。

河村氏のこれらの活動は、Mitaka の新たな可能性の展開と、それに伴う新しいユーザー層の育成に繋がっている。Mitaka は加藤恒彦氏が開発したもので、Mitaka なしに河村氏の活動はあり得ないものだが、今後、Mitaka の次期バージョンアップが待たれる中、河村氏のような熱心な操作技術の普及支援者がいることは、Mitaka のさらなる発展を目指す開発者と普及関係者の大きな励みとなるであろう。河村氏の活動は Mitaka の普及を通じた天文教育普及に大きく貢献するものである。

以上の理由により、河村聡人氏に、2023 年度日本天文教育普及研究会 若手奨励賞を授与する。

## 2.2 星見まどか(ホシミ マドカ)氏

年齢：本名・年齢は非公開(2023年7月1日現在で35歳以下の会員であることは事務局で確認済み)

所属：某大学大学院博士課程(惑星科学を研究中)

授賞対象となる活動：科学者系 VTuber(バーチャル YouTuber)としての斬新多様な天文普及活動

星見まどか氏は、博士課程での研究もふまえて科学者系 VTuber として 2021 年 9 月か

ら活発な天文普及活動を展開している。チャンネル登録者数は現時点で1万人を越え、さらに増加を続けている。魅力的なバーチャルキャラクター(アバター)をつくりあげてソフトな雰囲気醸しだし、しかしながら深い学びの場を提供する手腕は驚異的ともいえよう。

具体的に星見まどか氏の活動の際だった特徴を数値で示すと

- (1) 毎月3回(1日に星空案内、第2月曜日に「惑星科学最前線」、最終月曜日に「今月の宇宙ニュース」)を定期配信している
- (2) チャンネル登録者数：10,100人
- (3) 動画総再生回数：524,611回
- (4) 動画登録件数：445本

となる(記載の内容はいずれも2023年10月時点のもの、以下同様)。

星見まどか氏の活動はここ1年でますます広がりを見せている。ライブで行われる配信においては、日々の天文解説や惑星科学関連の事象紹介にとどまらず、視聴者とともに『天体擬人化作品』の制作を進めるなどのユニークな展開を見せている。天文や他分野とのコラボレーション企画も数多い。たとえば

- (1) 日本スペースガード協会の依頼によるコラボレーション生配信を計6回
- (2) 国立天文台暦計算室の依頼による解説動画提供
- (3) 天文誌『星ナビ』への寄稿(2回)、星ナビ編集部とのコラボレーション生配信。
- (4) 2023年のスター・ウィーク活動紹介コラボレーション生配信。
- (5) 三鷹市中央通り商店街(三鷹駅南口前 歩行者天国)のイベント出演。

特筆すべきは、学術内容を VTuber を通じて提供することで、通常の学術コンテンツでは興味を喚起しづらい層にもアクセスできるようになっていることである。エンターテイメントの要素を取り入れて、宇宙に興味があ

い人にも興味を持ってもらうように工夫している。YouTube 視聴者層が 10 代後半～30 代が多く、若手が若手の天文・科学の普及に寄与していることは望ましい限りである。また、配信中のコメントや SNS でのやり取りなどを通じて、視聴者との双方向のコミュニケーションを実現しており、固定のファンもいるとみられる。時代の変化に合わせた若手ならではの普及活動として、高く評価したい。

活動開始は 2021 年 9 月であり、活動期間は長くはないが、活動内容は広さ・深さともに群を抜いており、短期間で VTuber として確固たる地位を築いたといえよう。活動の継

続性の点においても、将来への発展性の点においても、現時点で不安な要素はない。

なお、「星見まどか」は本名ではないが、事務局において個人が特定されており、年齢も受賞範囲内であることが確認されていること、また VTuber は新たなるコミュニケーションの一つとして若い世代に通じる手段であると考えられることから、現存人物の名前を出さなくても良いと判断した。

以上の理由により、星見まどか氏に、2023 年度日本天文教育普及研究会 若手奨励賞を授与する。

\* \* \* \* \*